



Noguchi Times

NOGUCHI INTERNATIONAL BUSINESS CONFERENCE NEWS Vol. 9 2015.9.18



米国財団法人野口医学研究所 評議員会副会長 津田 武

CONTENTS

■ご挨拶		p2
■第19回NIBC開催内容		p3
■ハワイ大学医学部50周年式典の報告		p4
■米国臨床研修選考会		p5
■浅野嘉久公式サイトのご紹介		p6
■賛助会員のご紹介		p7
■野口記念インターナショナル画像診断クリニックのご案内		p7

ご挨拶

日中の医療交流



日本と中国は、古来より非常に繋がりが深く、地理については「一衣帯水」と例えられ、長い歴史を通じて、密接な関係を築いてきました。近年、両国は経済、文化、教育を始め、各分野において親密度を高め、日中交流も益々拡大しつつあります。

これまで、千代田国際教育グループは、日中民間交流の深化と発展を目指し、中国からの留学生の受け入れや、日中教育文化交流、日中青少年交流等、積極的に交流事業を展開してきました。今後は更に、日中の医療交流にも関わっていきたいと考えています。日本には世界トップレベルの医療技術と他国に類を見ない「おもてなし」の伝統があります。私は日本の医療や、野口医学研究所の素晴らしさを海外に伝えていくつもりです。

近年、日本の先進的な医療サービスを受けたいという中国人患者が増えています。しかし、中国人患者は言語の壁、医療システムの違い等の問題に阻まれ、容易に日本の医療サービスを受けることができません。以前より、いつか中国人患者と日本の医療機関の架け橋になり、病気で苦しむ外国人患者を救い、日本の医療技術の高さ、日本の「おもてなし」の素晴らしさを海外に発信できればと考えていました。そして今年、「野口国際ビジネス交流会」を契機として、念願であった株式会社メリーライフ・コーポレーションを設立し、医療通訳士の手配や検診者・治療者・同伴者の査証手配、その他宿泊手配などのサービスを提供しています。

これからも「野口国際ビジネス交流会」の皆様との交流を深めながら、日中の医療交流を進化させるとともに、日中友好関係の発展に貢献することを目指していきます。

米国財団法人野口医学研究所
参与会参与 栗田 秀子



千代田国際語学院 2015年度 卒業式の様子

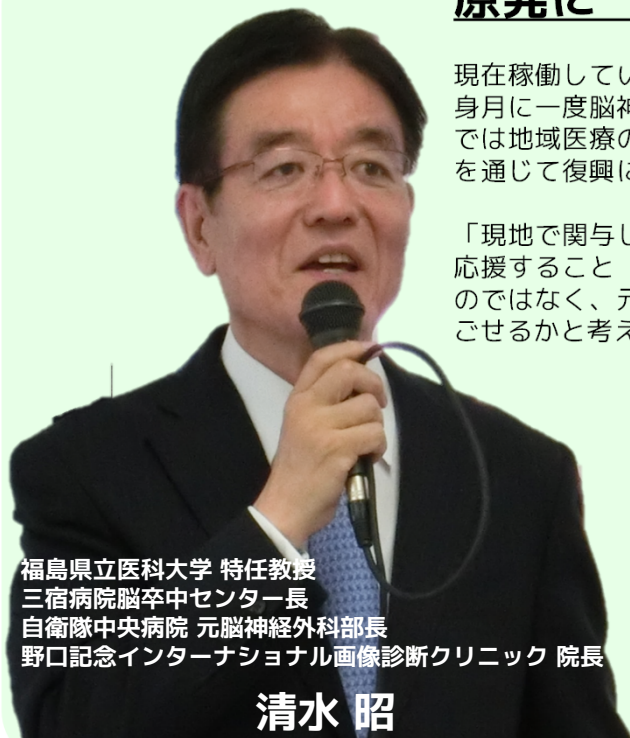
第19回NIBC開催内容報告

(NIBC : Noguchi International Business Conference)

2015年7月21日 (火)

於：野口医学研究所 9階会議室

原発に一番近い病院のいま



福島県立医科大学 特任教授
三宿病院脳卒中センター長
自衛隊中央病院 元脳神経外科部長
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 院長

清水 昭

現在稼働している総合病院の中では最も原発に近い南相馬市立総合病院へ、私自身月に一度脳神経外科診療のサポートに行っていますが、事故発生以後、福島県では地域医療の担い手不足という課題に直面しています。そのような中で、医療を通じて復興に寄り添おうと県外から被災地に赴いた医師達の声をご紹介します。

「現地で関与していく内に、被災者自身よりも、被災者を支援している支援者を応援すること（支援者支援）の方が重要だと気づきました。自分が何かを始めるのではなく、元々現地にあるものに積極的に参画し、如何にして一緒に楽しく過ごせるかと考えるようになりました。」

(小鷹昌明医師)

「東日本大震災と原発事故は子供達を取り巻く環境を大きく変化させ、幼児の言葉の発達や行動に多大な影響を与えました。幼児の言葉の発達を保障するには、安全な環境の整備と共に子育て支援をすることが重要と考えています。健診から子育て支援センターでの母児の長期支援に至るまでしっかりとサポートしていくことが大切です。」

(安藤幸典医師)

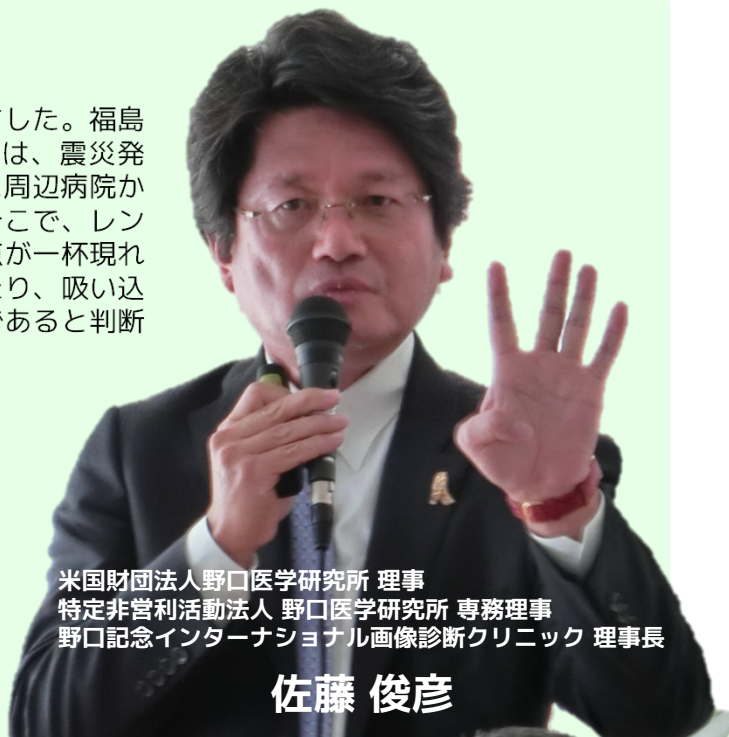
「南相馬市に来て驚いたのは“孤独な高齢者”が多いことでした。現在、南相馬市の高齢化率は33.5%で、2040年の東京の予想値とほぼ同じ値となっています。市民と行政が一体となり、互いを支え合う仕組みを作り上げる必要があると考えています。」

(尾崎章彦医師)

原発事故の今後

2011年3月11日に発生した東日本大震災から4年が経過しました。福島原発から180kmほど離れた宇都宮セントラルクリニックでは、震災発生当時、PETやレントゲン室から異様な音が鳴り響き、更に周辺病院からはレントゲンの異常による問い合わせが殺到しました。そこで、レントゲンフィルムを院内の窓側に置いてみたところ、黒い斑点が一杯現れたのです。これは、室外にいれば無数の粒子が身体に付いたり、吸い込んだりしていることを意味しており、即座に只ならぬ状況であると判断できました。

広島原爆やチェルノブイリ原発事故の資料にも示されていますが、核爆発は小児甲状腺がんの発生を増加させます。福島県県民健康調査では1次検査、2次検査（甲状腺の病変部位から細胞を接取して行う細胞診）を実施していますが、2次検査の受診率は30%台と低いのが現状です。その原因の一つには、十分な説明がないまま検査をするのみで終わってしまい、受診者の不安に答え切れていないことが考えられます。したがって、今後は患者様を啓発しながら、どう対話し、継続的にフォローアップしていくべきかが課題となっています。



米国財団法人野口医学研究所 理事
特定非営利活動法人 野口医学研究所 専務理事
野口記念インターナショナル画像診断クリニック 理事長

佐藤 俊彦

ハワイ大学医学部創立50周年式典

2015年7月18日（土）

於: Sheraton Waikiki Hotel

米国臨床研修施設の一つであるハワイ大学医学部（通称JABSOM：John A. Burns School of Medicine）の創立50周年祝賀会がSheraton Waikiki Hotelで開催されました。JABSOM学部長であるJerris R Hedges先生のゲストとして、NPO野口医学研究所の理事長である羽村章先生と米国財団法人野口医学研究所の医学教育・交流室室長のStellora Sunyobiが出席しました。



パーティー会場では、1,300人もの招待客の前で、JABSOM関係者から挨拶が述べられた他、50年に亘る歴史を綴ったビデオ放映や世界的ウクレレ奏者であるJake Shimabukuro氏の演奏で盛り上がりました。



ハワイ大学の先生方と一緒に

Satoru Izutsu

Vice Dean
Emeritus Professor of
Public Health and Psychiatry

羽村 章

NPO野口医学研究所 理事長
日本歯科大学 生命歯学部 部長



野口アラムナイ金城先生と一緒に

Stellora Sunyobi

米国財団法人野口医学研究所
医学教育・交流室 室長

Jerris R. Hedges

Professor and Dean
Barry & Virginia Weinman-
Endowed Chair

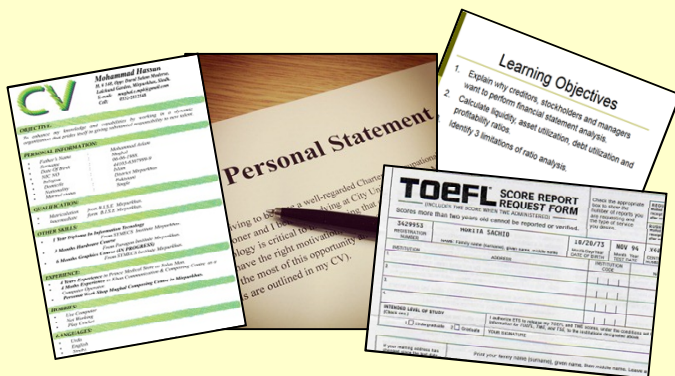
金城紀与史

沖縄県立中部病院
総合内科 医長

米国臨床研修選考会について

米国財団法人野口医学研究所では、医師や医学生の国際医学交流を実施する為、毎年選考会を行っています。医学交流活動は今年で32年を迎え、これまでの留学人数は優に1,000人を超えるまでにになりました。今回はどのような流れで選考会が行なわれるのかをご紹介します。

①選考会にエントリー



まず、研修希望者には、Curriculum Vitae(履歴書)・Personal Statement(自己PR)・Learning Object(研修希望内容)等を提出して頂きます。自分の将来の夢や、研修を通して学びたいことを具体的に書面で表現して頂きます。



②選考会当日



書類審査とともに、現役のドクターが面接官となり、臨床知識や英語力について、インタビューが行われます。慣れない環境で研修をする為、コミュニケーション能力や人柄は大事な評価ポイントとなります。



③合格発表



選考会に合格した医師や医学生は、各々希望する科で、患者に寄り添うことができる医師を目指すという野口の理念に基づいて、臨床研修を行います。



2015年度の選考会は、トーマス・ジェファーソン大学副学長&医学校校長Dr. Tykocinski、同大学医学校副校長&医学部長代理Dr. Pohlも来日予定です！

浅野嘉久公式サイトでのつぶやき

米国財団法人野口医学研究所の創立者・名誉理事、一般社団法人野口医学研究所の社員総代である浅野嘉久がほぼ毎日Facebookページやブログを更新しています。

今回はある日のエッセーを紹介致しますので、興味を持った方は早速アクセスし、パソコンからご確認頂ければ幸いです。

f Facebookページ

<https://www.facebook.com/asano.yoshihisa>

公式ブログ（アメブロ）

<http://ameblo.jp/yoshihisa-asano/>



浅野嘉久

7月13日 · 🌐

【文科省に文句あり】

文科省（文部科学省）に文句がある。

中国語の発音、韓国語の発音、彼らの持つ夫々無数の漢字とそれを一個一個発音し区別出来る四声とハングル文字。

日本にはカタカナでルビを打つという手があると言えばそれまでだが、今日までの文科省の英語教育に於けるそれは、全く米語では役に立たない。今時はBritish Englishを話す人の数は少ない。世界中、皆、American Englishである。

私には笑えない悲劇（喜劇?）もある。
こんな笑い話はどうか。

コーヒーを頼めばコーラ、コーラを頼めばコーヒーという話は良くあることだが、ある時、飛行機の中でCA（ケビンアテンダント）が「カフィ? オア ティ?」と言いながら私の前に回って来た。ここは一つ品良く応えようと思い、「アイム、ファイン」と応えた。彼女はそれに「アウケイ」と応え、直ちに「ワイン」を持って来たのである。

フランスのルノー社（車）について、我がAmerican PartnerであるMike（J. Michael Kenney氏）と話をしたことがある。日産⇔Mr. ゴーンの話になり、「ルノー」を一生懸命発音しても、そのルノー社（車）の「ルノー」がどうしても通じない。到頭最後になって、「レノー」と発音すれば良いと判るに至ったのだが...

例えば、コーヒー⇔カフィ、ウォーター⇔ワーラーから始まり、ルノワール⇔レノア、パスツール⇔パストア、マッハ（音速）⇔マック等々...

（文科省の人間を始め...）頑固な人達は、日本は元々英国との関わりが深く、英語、即ちBritish Englishの影響を受け、これを踏襲しており、コーヒーはコーヒーである。その方が米語のカフィより品良くサウンドするのだ、と言い続けている。

しかし、通じなければ意味が無い。

何故、コーヒーと頑固に言い続けず、カフィとルビを打たないのか?!
文科省の石頭! カタカナも使い方次第!! 何とかせえ!!!

皆様のご訪問をお待ちしています。

気になるエッセーがありましたら、是非 いいね! やコメントをお願いします。



Y. Asano clA

賛助会員のご紹介

米国財団法人野口医学研究所は、国際医学交流の促進を目的とした活動を永年に亘り続けてきました。日本が生んだ世界的医学者・野口英世博士の偉大な業績を称えその遺志を受け継ぐためには、国際医学交流活動は不可欠であると考えています。当財団の「賛助会員制度」は、多くの方々にこの活動へのご理解とご支援を承る役割を果たしています。今回は、全国人材支援事業協同組合様をご紹介致します。

世界から日本へ 日本から世界へ

私たちは、 一般社団法人 Japan Human Support Union **全国人材支援連合会** の傘下組織として、全国の技能実習生受け入れ事業を行ない、総合的な国際人材支援事業を行っております。

【一般社団法人全国人材支援連合会 加盟協同組合】

- | | | | |
|-----------------|---------------|---------------|--------------|
| ●全国人材支援事業協同組合 | ●東海人材支援事業協同組合 | ●近畿人材支援事業協同組合 | ●TOYO事業協同組合 |
| ●東日本人材協同組合 | ●亜細亞人材支援協同組合 | ●アジア共栄事業協同組合 | ●群馬県人材事業協同組合 |
| ●東京クリエイティブ協同組合 | ●彩の国事業協同組合 | ●北日本流通協同組合 | ●サンタ協同組合 |
| ●東京医療介護用品事業協同組合 | ●はなみずき事業協同組合 | ●のぞみ協同組合 | ●ブロードワン協同組合 |
| ●建設事業ネットワーク協同組合 | ●海進協同組合 | | |

【実習生受入可能国】



社会貢献。それが私達の使命です。

- 主治医以外に意見を求めたい方に
「画像診断セカンドオピニオン」
- がんの早期発見に
「テロメスキャン®」
- がんの免疫細胞療法に
「BAK療法」
- 乳がんに対する不安に
「乳房専用のPET検査“PEM”」



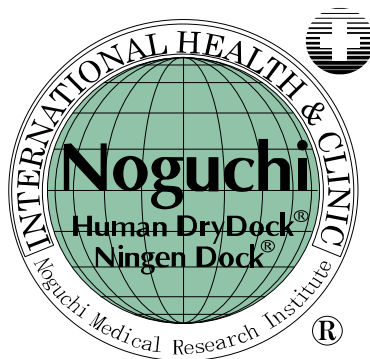
医療法人社団NIDC

野口記念国際画像診断クリニック

Noguchi International Diagnostic Clinic

是非一度ご相談下さい

お問い合わせは
「野口医学研究所」まで



NOGUCHI TIMES

Noguchi International Business Conference News Vol. 9

発行日 2015年9月18日
発行人 安東 恭助
発行所 米国財団法人野口医学研究所
編 集 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-13
電話 03-3501-0130
米国財団法人野口医学研究所 参与会
